

機能毎の病床の状況について

病院名: 南和広域医療企業団 吉野病院 医療圏: 南和

※H28年度の列は、別紙1－3「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。
※R7年度、R8年度(2026年度)の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

			(a)	＜R7年度＞ 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)	(単位: 床)	
			＜H28年度＞ 許可病床数			(b)	(b-a)
						将来 (R8/2026年度) 病床数	H28年度からの 増減 (自動計算)
一般病床・療養病床	高度急性期						0床
	急性期	重症					0床
		軽症					0床
	回復期		50床	50床	47床	50床	0床
	慢性期		46床	46床	40床	46床	0床
	休棟中 (今後再開する予定)						0床
	休棟中 (今後廃止する予定)						0床
	(合計)(自動計算)		96床	96床	87床	96床	0床
精神病床							0床
結核病床							0床
感染症病床							0床
介護医療院							0床

(単位: 人/日)	
1日平均 在院患者数(注2)	
1日平均 外来患者数(注3)	

※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。
(注1) 最大使用病床数
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

1. 基本情報

病院名：吉野病院

医療圏：南和

2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

（１）これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

南和広域医療企業団（以下、「当企業団」という。）は、主に急性期機能を担う南奈良総合医療センターと回復期・慢性期機能を担う吉野病院・五條病院で構成され、3病院がお互いに協力し合いながら運営している。

南奈良総合医療センターは、総病床数232床（高度急性期病床8床、急性期病床188床、回復期病床36床）で運用されている。

吉野病院は、総病床数96床（回復期50床、慢性期46床）、五條病院は、総病床数90床（回復期45床、慢性期45床）となっている。

地域医療構想を踏まえた当企業団の役割としては、医療資源の限られた南和地域で今後も南和の医療提供体制を守っていくということである。

当院は、南和地域の医療機能を集約し、将来にわたり医療を継続できる体制を構築すべく2016年に再編された。それ以降、急性期から慢性期までの一貫した医療提供体制を担う唯一の公的機関として、企業団内で適切に役割を分担しながら、南和の医療を支えてきた。

現在の病床数は再編時に将来の需要を精査して決定したものであり、開院後の当圏域における患者動向や病床利用率の実績に照らしても、現在の地域ニーズに適合した適切な規模であると評価している。また、地域において求められている役割の重要性は、開院当時と比較しても変化は認められず、地域からの期待についても変わりはない。したがって、当面の間については、総病床数は維持していく方針である。

あわせて、高度急性期機能の確保については、現在、南奈良総合医療センターにおいてHCUとして8床を整備しているが、自院で不足する分については、当面、奈良県立医科大学附属病院との緊密な連携により確保していく。これにより、圏域内における高度な医療需要に対しても、滞りなく対応できる体制を維持していく方針である。

そのほか、吉野病院の基本方針としては、南奈良総合医療センターとの連携により、構想区域内の医療受療充足割合を高めるため、回復期、慢性期医療及び在宅医療の充実、推進を担う。また、高齢者のポリファーマシーも問題となっており、ポリファーマシーの是正にも積極的に取り組む。今後、国が示す「新たな地域医療構想」の議論については注視し、地域の実情や需要の変化を的確にとらえながら機能の見直しは行っていく。

（２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

企業団3病院の中で、南奈良総合医療センターが中心となって対応していく。そこで必要とされる連携を行っていく。

（３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

企業団3病院の中で、南奈良総合医療センターが中心となって対応していく。そこで必要とされる連携を行っていく。

(4) 今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療DX、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

企業団3病院の中で、南奈良総合医療センターが中心となって対応していく。そこで必要とされる連携を行っていく。

3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[1-2]手術の実施

—

[1-3]化学療法の実施

—

[1-4]放射線治療の実施

—

[1-5]拠点病院等の指定

指定されていない

[1-6]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

実施していない

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

実施していない

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

対応していない

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

実施していない

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

実施していない

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

実施していない

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

実施している

[3-9]特記事項

企業団3病院で協力して対応していく。

南奈良総合医療センターでは、脳卒中に対する手術による治療をはじめ血栓溶解療法（t-PA療法）の適用実績を有し、急性期を脱した患者の集中的なリハビリテーションを行う回復期リハビリテーション病床が稼働している。

また、吉野病院と五條病院が回復期・慢性期を担うシームレスな医療提供体制を構築。ドクターへの活用によりアクセスを確保。2019年9月から、一次脳卒中センター（PSP）の認定を受け、脳卒中診療の充実を図っている。

2023年4月1日より、SCU（脳卒中ユニット）を設置している。

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

—

[4-3]大腿骨骨折への対応

—

[4-4]病院群輪番制への参加

—

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

—

[4-6]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

—

[5-4]訪問リハビリの実施

実施していない

[5-5]通所リハビリの実施

実施していない

[5-6]今後の方向性

企業団3病院で協力して対応していく。

南奈良総合医療センターでは、回復期リハビリテーション病棟36床を運用し、脳卒中、廃用、がん、心臓、運動器等様々な症例に対しリハビリテーション実施している。吉野・五條病院にもリハビリテーションのセラピストを配置し、回復期の医療を企業団全体で担っている。また、南奈良訪問看護リハビリテーションも実施しており今後も継続して行っていく。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

対応している

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

有り

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]特記事項

企業団3病院で協力して対応していく。

南奈良総合医療センターに在宅医療支援センター、吉野・五條病院に在宅医療支援室を設置し、医師・看護師のほか、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などのスタッフが連携し、在宅療養支援病院として地域のニーズに対応した訪問診療、訪問看護を実施。南奈良総合医療センターで在宅療養されている患者さんやご家族が安心して自宅で過ごせるような地域のかかりつけ医からの求めに応じて緊急時の入院受入を行う。また、ICTを活用し電子カルテと連動したシステムを運用。

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

対応している

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ある

[7-3]上記でありの場合、その名称

南奈良訪問看護ステーション

[7-4]特記事項

南奈良訪問看護ステーションにて対応する。

2021年1月より南奈良総合医療センター施設内に、南奈良訪問看護ステーションを設立し、訪問看護を実施している。2022年には看護師の増員を行い、重篤な疾患患者等の医療ニーズの高い患者を支援している。2024年4月には南奈良訪問看護ステーションサテライトステーションを吉野病院に設置している。

[8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について

定めている

[8-2]特記事項

在宅医療提供体制の強化をしていくとともに、本人・家族の意思を尊重した看取りの整備を行っていく。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[9-2]小児入院医療管理料の算定

—

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

—

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

—

[9-5]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。奈良総合医療センターでは、小児二次輪番病院（中南和）に参画し、中南和医療連携区域における小児救急患者の受け入れ体制を確保している。また、平日17：00から19：00まで外来診療を行い、一次救急医療に取り組む。
引き続き、これらの対応を行っていく。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

—

[11-3]DMA T 指定病院の指定を受けているか？

—

[11-4]E M I S （広域災害救急医療情報システム）への参加

—

[11-5]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

—

[12-3]特記事項

南奈良総合医療センターで対応している。

[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[13-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当する

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当しない

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当する

[13-7]特記事項

臨床研修においては南奈良総合医療センターの協力施設、専門研修においては奈良県立医科大学付属病院内科プログラムの連携施設となっている。
要請により医師の受け入れを行い、将来の地域医療を担う医師養成に取り組んでいる。

[14]医師の働き方改革

[14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

[14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

[14-3]特記事項

当企業団では、出退勤システムの導入により医師の労働時間の把握ができており、時間外労働と自己研鑽の区分けについて対応している。
また医師事務作業補助の配置や臨床工学技士による診療補助などタスクシフト/シェアの推進など、医師の時間外労働時間の縮減に向けて取り組んでいる。

[15]看護職員の研修機能

[15-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[15-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

[15-3]特記事項

—